

すわみつえ通信

No.341 2024年12月9日

日本共産党鴻巣市議会議員
諏訪 三津枝



連絡先 鴻巣市赤見台3-2-7
TEL: 596-9440 FAX: 507-4151
携帯: 080-5039-2785
E-mail: mi-suwa@ezweb.ne.jp
mitsue-suwa@jcom.zaq.ne.jp

WEBで

すわみつえ



身近な議員として もっと届けたい声がある 声をかたちに

12月市議会 行政委員に対する質問

このす花火大会で市議会議員が事業主である 事業者名で行う協賛金は「寄附」にならないか

2024年10月5日に開催された第21回このす花火大会では、主催した鴻巣市商工会青年部のご尽力があり、さらにボランティア等の協力により、内外から多くの方の観覧があり大盛況でした。財政面ではチケット販売と協賛金への協力が成功の支えとなったことと思われます。

ところが、今年のこのす花火大会で、鴻巣市議会議員が事業主となる事業所の名称で協賛の実態がありました。

事業所の名での協賛であっても公職選挙法第199条の3で定める「氏名を類推される」に当たると考えられます。

12月3日(火)午前9時より行った行政委員に対する質問で、選挙管理委員会委員長に、このす花火大会における市議会議員の協賛金は「寄附」にあたらないか見解を求めました。

寄附は勿論、年賀状や欠礼のハガキなども選挙区内では禁止とされています。公職にあるものは市民に疑念や誤解を招く行為があってはならないと思います。

選挙管理委員長の答弁は

公職選挙法第199条の3では「いかなる名義をもってするを問わず、寄附をしてはならない」としており、「例えば『鴻巣太郎』という候補者が社長の『鴻巣商店』が協賛金を払った場合は、寄附になる。しかしながら、判断は選挙管理委員会ではなく、取締り機関や司法においてされるものである。」と答弁しました。

鴻巣市議会では、第一回このす花火大会から議員倶楽部より協賛金を支出してまいりましたが、2015年の議員倶楽部幹事会で「公職選挙法違反のおそれがある」ことから協賛を止めた経緯があります。

議案第97号 鴻巣市保健センター設置及び管理条例の一部を改正する条例を審査

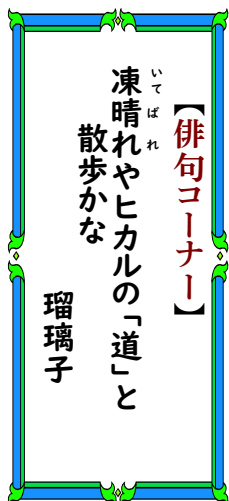
吹上保健センターは設置後38年が経過し老朽化しているため2025年3月31日で閉所する議案です。文教福祉常任委員会の審査に当たり、委員会として現地を視察しました。屋上からの雨漏りがひどく、施設内はカビ臭があり、湿気を強く感じました。トイレの配管は二回続けて流すと逆流するような事態でした。

吹上保健センターで行っていたがん検診等は本年より商業施設などで実施しており、乳幼児健診等はコスモスアリーナで実施しています。

母子健康手帳の交付については予約し吹上支所にて、面接相談とともに交付が可能であること、等、確認しました。閉所はやむを得ないことと判断し、議案に賛成をしました。



吹上保健センター



【俳句コーナー】

凍晴れやヒカルの「道」と
散歩かな

瑠璃子

毎週朝 駅頭においてホットなニュース「すわみつえ通信」をお届けします。

(月)吹上駅南口 (火)北鴻巣駅東口 (水)北鴻巣駅西口 (木)吹上駅北口 (金)鴻巣駅西口

議案第98号 鴻巣市教育支援センター条例の一部を改正する条例を審査



教育支援センター

川里ふるさと館に設置されている教育支援センターを2024年度末で閉校となる小谷小学校の2階に2025年8月1日から移転する議案です。移転の理由は「利用者の利便性の向上とより良い教育環境の整備」です。適応指導教室に通う不登校児童生徒は農家の方から畑作業を教わるなど地域との交流があり、今まで何ら「場所に関わる課題」があることを聞いていません。議案は小谷小学校の閉校を待つかのようなタイミングで出されました。ふるさと館の存続にも影響を及ぼすのではないのでしょうか。到底理解できるものではなく、移転議案に反対をしました。

1941年12月8日太平洋戦争勃発の日から83年。市民のみなさんとともに「戦争させない行動」を行いました。
＝鴻巣駅自由通路、12月6日(金)夕方



山形新聞 コラム「談話室」

▼▽家族のために懸命に生きて、気付いてみれば60代半ばになっていた。それぞれやりたいこともあったろうに。そんな父母への心情を、井上陽水さんはソロデビュー曲「人生が二度あれば」で哀感たっぷりに歌い上げた▼▽レコードの発売は1972年。当時の日本の平均寿命が70歳だったことを考えれば、若い時の夢を語りながら静かに時を過ごすのが、両親世代の現実的な余生だったと思える。一方、違う二つの人生を送るお手本といえどこの方、元東京地検特捜部検事の堀田力(つとむ)さんだろう▼▽戦後最大の疑惑といわれるロッキード事件で、逮捕された田中角栄元首相の公判を担当した。鋭い追及から付いた異名は「カミソリ堀田」。その切れ者が退官後に選んだのは、ボランティアと福祉の道だった。振れ幅の大きな転身は多くの人に驚きを持って受け止められた▼▽皆が楽しく生き、できないことは堂々と「助けてほしい」と頼める社会にする必要がある。検事時代から痛感していたという。生前、本県(山形県)をボランティア活動の先進地と評価。講演では平素の近所の繋(つな)がりが大切だと繰り返し説いた。第二の人生を豊かにする指針でもある。 【山形新聞 12月5日付】

今年になって初めて知った言葉が「ふてほ...

今年になって初めて知った言葉が「ふてほど」だったのは、いかに流行に遅れていたかと反省している。それが流行語大賞なのだという。ドラマの「不適切にもほどがある」を略したものだそうだ。昭和の体育教師が令和の時代にタイムスリップして、法令順守に縛られた社会で奮闘する物語という。

これも価値観のギャップに、SNS(交流サイト)などで話題を呼んだというから、新聞やテレビで見聞きしたことがない人がほとんどだろう。

仕事柄、トップテン入りした「裏金問題」の方がしっくりくる。1強を誇っていた自民党が、先の衆院選で惨敗し、連立を組んでいた公明党も共倒れして、与党が過半数割れした。敗因は「裏金問題」にあったことは言うまでもない。開会中の臨時国会で、どこまで解明し、政治改革を進めていくかが問われている。

昨年の今ごろは、まだ問題が始まったばかりで、当該議員らはここまで事態が大きくなるとは思っていなかったろう。年を越したら収まるどころか、来年の参院選でも、より厳しい審判が下されよう。

【奈良新聞 12月5日付 コラム「国原譜(くにはらふ)」】